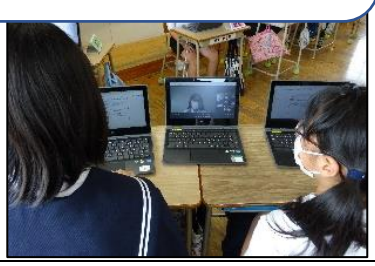
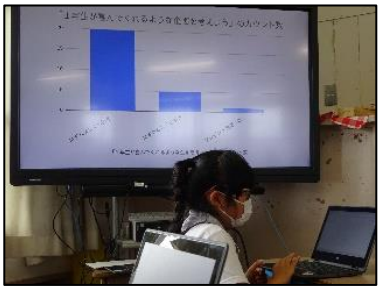
終わりに

学校教育課プロジェクトＥ推進室が出している「プロジェクトＥ通信 vol.53」に鳥栖市立若葉小学校の実践が紹介されていました。その中で端末を使った６年生の学級会の様子が紹介されましので、詳細を記載いたします。

過程	学習活動	端末の活用
始めに	・自分の考えの記入 ・司会グループとの事前の打ち合わせ ・議案書の提案理由や決まっていることを確認する。	・議題名と話合いの柱を端末に入れておき、各自端末に自分の考えを入力する。 ・司会進行マニュアルは端末の中で共有をかけておく。 ・観察記録が入力できるフォームを作っておく。 ・提案理由や決まっていることなどは、学級会ファイルの中に入力しておく。
出し合う	・事前にアンケートを取っておき、その集約結果を知る。 ・事前に考えた自分の意見を発表する。	ここでは、子供につけたい資質・能力として、パブリックな場で自分の意見を伝えたり、友達の意見を聞いた上で自分の考えを述べたりする力を育みたいと考え、端末を使わず従来通りの学級会を行う。
比べる	・友達の意見を聞いて、賛成意見を言ったり、付け加えをしたりする。 ・提案理由に沿った実現可能な考えに意見を述べる。	リモートで参加している児童の意見は、同じグループの子供が代読して伝える。 
まとめる・決める	・友達の意見を聞き、どれにするかを再度入力する。 ・実行委員に意見を求める。 ・実行委員の意見をもとに集団決定をする。	・比べる中で、合体案が出たので教師がフォームの修正を行い、クラスルームの集約機能を使い、もう一度集計をし、全体に示す。 
終わりに	・本時の振り返りをする。	・3段階評価ができるフォームと自由記述欄に感想を入力する。 ・観察記録から、端末に入力をしたことの発表を行う。

一般的には、学級会を開くにあたり、司会進行マニュアル、学級会ノート、観察・記録ノートなどを作成し、印刷をして配布して、貼らせるという作業が必要です。また、学級会ノートを事前に集め、全てに目を通しコメントを入れるという作業も必要となります。学級担任はかなりの時間と労力が必要となります。このことが、学級会を開くにあたっての一つの障壁になっているのではないでしょうか。この学級での学級会は完全ペーパーレ

スです。司会進行マニュアルは端末の中に入っており、司会の子供は端末を見ながら進めます。提案理由や決まっていること、話合いの柱が書かれた議案書は事前に端末の中に入れておきます。自分の考えも時間をとって各々端末に入力をします。学級会ノートを集めることもなく、先生も自分の端末で子供の事前の考えは全て把握できます。また、学級会が終わった後も、端末内にフォームを入れておき、振り返りができるようにします。数名の子供に端末での学級会について聞いたのですが、「こっちがいいです。もう慣れました。」と言っていました。学級会の未来が見えた感じがしました。

もう一つ紹介したいことがあります。46 歳男性が新聞に投稿されたものです。

> 35 年前、小学 5 年の 3 月だった。タイトルは忘れたがクラスで「お楽しみ会」のようなことをした。先生の助言もあったと思うが、基本は自分たちで話し合って、会の進行や内容まで考えた。いわゆる年度末の「打ち上げ」だ。何か出し物をしたのか、クイズだったかゲームだったか、何をやったかは覚えていない。しかし、35 年たった今でも覚えている光景がある。
>
> その時も、何が楽しかったのか、どこで盛り上がったのか覚えていない。とにかく楽しくて、みんな羽目を外して、騒ぎすぎて、収拾がつかなくなっていた。先生も我慢の限界を超えたのだろう。大きな声で叱られた。それから一転、おとなしくなった私たちは粛々と会を進めた。しかし、その後サプライズがあることを先生は当然知らなかった。
>
> 最後に 1 年間の感謝を込め、先生に花束を渡した。クラスみんなでお金を出し合い、こっそり準備していたのだ。すると先生は泣き出し、教室の隅にある教員用の机に突っ伏してしまった。会も終わり、掃除の時間になっても先生はそのまま。私はこれまで以上に丁寧に掃除をした。帰りの会で先生は「この花束を後でドライフラワーにする」とおっしゃった。ドライフラワーが何か当時はよく知らなかったが、大切にしてくださることは理解できた。先生が泣きやんで、喜んでくれたことにホッとした。
>
> そして、小学校最高学年となる来年度は、しっかりした 6 年生になろうと、その時思った。

これを読んだときにちょっとジェラシーを感じるとともに、ジーンとくるものがありました。お金を出し合い花束を贈って先生を驚かせようとしたところに子供の発意発想を感じましたし、「来年度は、しっかりした 6 年生になろう」と決意されたこと、自己実現に向けた思いがよく表れています。また、非日常を味わえるので、ついつい子供も羽目を外し、先生の一喝で楽しい会がお通夜のようになることもありますよね。そして何より伝えたいことは、教師を続けているとこのようにお金では買えない、心が震える感動を味わうことができるということです。学級担任をしていると、嬉しいこと、歯がゆいこと、腹が立つこと、感動することなど様々な感情を味わえます。この先生も、この一年間の様々な出来事が思い出され、思わず突っ伏されたことだと思います。忘れられない教師人生の１ページになられたことでしょう。教師冥利につきます。

この方は 35 年前のことを今でもはっきりと覚えられています。ということは心に刺さる出来事だったということです。自分たちで話合い、実践し、自主的、自治的に学級を変えていく取組というのは、数値では表しにくい多くの学びがあるように思えます。このような経験が子供の心のエネルギーになります。先生方には働き方改革やコロナ禍の波に屈せず、子供たちの笑顔とやる気を取り戻してほしいと思っています。そして、何より学級会を通して子供と一緒に学校生活づくりを楽しんでください。